「日々の理科」（第 3123 号）　2023,-2,23

「すこやかまつり（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

本校の伝統の一つに「学年愛称」「学年マーク」というものがある。私が赴任した 36 年前（昭和 62 年）にはすでに存在していたので、かなり以前から続いている習慣のようだ。

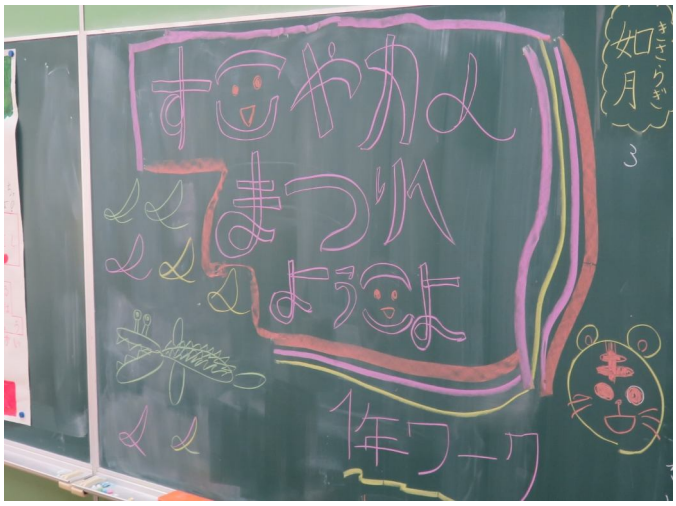
学年愛称と学年マークは、１年生が「わかば」２年生が「あおば」というように、学齢に固定されたものではない。入学時にその時の担任団が決めて、卒業するまで使い続けるというものだ。従って、今の６年生（めぶく学年）は、１年生時から「めぶく学年」だった。この名称は卒業後も使われるので、卒業生に合うと「何学年だったっけ？」「みらい学年でした！」という会話がなされ、すぐに思い出すことができる。私は非常に良い伝統だと思っている。

「学年愛称」のセットで「学年マーク」というものもある。大抵は、入学年度（西暦や和暦）の数字を意匠化したものが多い。一年中描くマークなので、「一筆書きで描ける」マークが多い。現在の１年生は、2022 年度入学なので、「22」の２文字を意匠化し、こんなマークにした。学年の愛称は「すこやか」とした。「今は三日月のように細く小さいけど、６年生になるまでには、満月のようにすこやかに育ってほしい」という、担任の思いもこめられている。

この学年マークは、子どもたちの持ち物（上履き、ノートなど）にも書かれ、そのまま卒業まで持ち上がる。プリントの氏名欄にも書くこともある。愛称のほうもいろいろな場面や活動で使われる。今回の１年生の学年活動も「すこやかまつり」である。「すこやか学年のお祭りの活動」という意味である。

子どもたちは、おまつり当日に向けて、ずいぶん前から準備をしていた。基本的には縁日の夜店のように、「何か売っている（もらえる）」「何か楽しめる」という「お店」がたくさんある、という方式だ。

これは「チョコバナナ屋さん」のようだ。ものすごい数を作っている。もちろん、食べられるものではない。実際の飲食は一切できないという約束なのだ。



宣伝にも余念がない。教室の黒板に意匠をこらして書かれている。ここにも学年マークが書かれている。